

算数科学習指導略案

氏名	5年担当教員
実施日時・学年クラス・場所	令和2年6月25日 3校時 ・ 第5学年1組 ・ 教室
単元名	わり算の世界を広げよう〔小数のわり算〕
本時の目標・評価	小数の除法での余りの意味を理解し、余りをもとめることができる。 (評価) ワークシート、ノート【知識・技能】
授業の視点	図や検算の考えなどを用いて考えることは、余りの大きさを理解する手だてとして有効であったか。

本時の展開 (7/9)

過程	学習内容		時間
	学習活動	指導上の留意点	
つかむ	1 問題を捉え、本時のめあてを設定する。	○ 前時の振り返りを簡単に行った後、本時の問題を紹介する。	5
	<p>問題</p> <p>2. 5mのリボンを、1人に0.7mずつ配ります。何人に配れますか。また、何mあまりますか。</p> <p>・初めて「あまり」が出てきた。 ・数直線に表すことはできそうだ。 ・図に表すこともできそうだ。</p>		
見通す	2 見通しをもつ。 ・図をかく。 ・検算から考える。 ・cmに直して考える。	○ 教室の掲示や前時までのノートを手がかりに、問題を解決するための見通しをもつ。 ○ 今まで通り計算をすると、余りが4になるが、4ではいけないのかを考える時間を設定する。	5
解決する	3 個人思考をする。 ↓ 集団交流し、確かめる。 ↓ 全体であまりの求め方を確認する。	○ (つまずいている児童) ・ヒントカードを渡し、図に書かれている長さを考えることで余りを求めることができるようにする。 (解決できた児童) ○ 別の考え方を書いたり友達に分かりやすい説明の方法を考えたりするよう促す。	20
まとめる	4 まとめをする。	○ 自分たちの考えが他の問題でも用いることができるのか、1問検証する(2.7÷0.4)。 ○ 全体で確認した考えの中にあるキーワードを組み合わせ、めあてに対応したまとめとなるようにする。	5
<p>まとめ 小数のわり算のあまりは、わられる数もとの小数点にそろえてうつとよい。</p>			
伸ばす	5 計算の練習をする。 ① 4.9÷2.3 ② 17.5÷9.6 ③ 340÷7.2	○ (つまずいている児童) ・わり算の筆算の仕方を確認しながら、一緒に取り組んでみる。 ○ (解決できた児童) ・悩んでいる友達にアドバイスをする。	10
	6 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	○ 全員で計算の仕方と答えを確認する。 ○ 「わがともよ」の視点で、本時の振り返りをノートに記入する。 ○ ふりかえりを発表することで、めあての達成度を確認できるようにする。	

指導計画（抜粋）

時	学習活動	評価の観点		
		知技	思判表	態度
5	筆算の仕方が、既習のものどどのように違うか考える。 それぞれの解き方を説明し、練習問題を行う。	○		
6	問題文から数直線をかき、それをもとにそれぞれの1mのリボンの値段を求める。 わり算をしたのに、商がわられる数より大きくなっているものがあることに気付く。 どのようなときに、商がわられる数より大きくなっているか、数直線などをもとに考え、まとめる。		○	
7	余りがある場合の小数のわり算の仕方を図や数直線などをもとに考える。 考えたことをもとに、小数の除法の余りの大きさについてまとめる。	○		
8	わり切れないときの商の表し方を考える。 わり切れないときは、商を概数で表すことがあることを知り、文章問題を行う。		○	
9	「たしかめよう」に取り組む。 「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	○		○

板書計画

<p>問題 2.5mのリボンを、1人に0.7mずつ配ります。何人に配れますか。また、何mあまりますか。</p>	<p>見通し ・図をかく。 ・検算から考える。</p>	<p>2. 7 ÷ 0. 4</p>
<p>数直線図</p>	<p>考え ・図から考える。</p>	<p>まとめ 小数のわり算のあまりは、わられる数もとの小数点にそろえてうつとよい。</p>
<p>式 2. 5 ÷ 0. 7</p>	<p>考え ・検算から考える。</p>	
<p>めあて 小数のわり算のあまりの求め方を考えよう。</p>	<p>考え ・cmに直して考える。</p>	<p>練習問題 ①4. 9 ÷ 2. 3 ②17. 5 ÷ 9. 6</p>

書く活動における具体的な手立て

<p>1 個人思考で書くための見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余りは本当に4でよいのか→子どもとの対話や具体物の提示（答えの見通し）。 ・どのような方法がありそうか→既習事項の確認（方法の見通し）。 <p>2 個人思考での書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの方法で問題の解決を目指すか→ノートに明記。 ・相手を意識した書き方の工夫→見やすさ、簡略さ。 ・解決できた子ども→2つ目の方法、3つ目の方法にも挑戦。 <p>3 書いたことを生かした、集団交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見た人がより分かりやすくなるように→ノートに追記。 ・自分が行っていなかった方法→ノートに追記。
